

ITSUBISHI TRACTORS



有機農業を実践するピエールさんがあいさつ
④。コルネ社を視察する団員⑤



自信伝わる 高品質生産

松山 上地 尚志

今回の視察団に参加して欧州の農業、文化の一端を知ることができました。

まずFIMA展示会では展示スケールの大きさに圧倒されました。また、作業機が大きいロータリー縦軸ハロー、プラウ、播種機、カルチベータなど折りたたみ機構を採用しているもの、また石を砕く作業機などに興味を引かれました。見学

に来た人達も若い男女が多く、日本の展示会場ではなかなか見られない光景です。

フェント社では、部品加工から完成までの生産工程を見学、機械加工では、各ハウジング、ギアシャフト、フレームなどの加工が全自動で行われ、機械が部品を造っている感じでした。また各工程ごとに洗浄、品質検査が徹底して行われていました。

組立ラインでは、機械化と手作業を組み合わせた丁寧な製品を造り上げていました。自信を持ってトラクタを製造している感じがヒシヒシと伝わってきました。

農家訪問においては、3000畝を耕作している有機農法栽培の農家を訪問しました。1980年代、生産物が過剰になり、作っても売れない時代を経験して、有機農法に切

り替えたそうです。しかし、有機農法は簡単にできない、大麦だ、と説明していました。作物の収穫は一定しない、特別な補助もない、市場では完全な有機作物でないと思われなければならないこと。耕作用面積は、始めた頃は1000畝で、現在は3000畝と大きくしても収入が変わらないなど、厳しい農業の現状を知ることができました。

生産性を上げ、生産物に付加価値をつけ、低コストで生産する、という日本の農業の現状と似ている一面を見ました。国際協力等の問題はありますが、現状を直視して克服していく様に農業の力の姿勢が見えました。

今回の視察を通して学んだことをこれからの業務に活かしたいと思えます。(南九州出張所長)

農機の役割 を再確認

ヤンマー農機東日本 柴田 蔵吉

欧州農事情の視察に参加させて頂き、スペインやドイツ、フランスを見学し、日本との差を強く感じました。

スペインのFIMA展は出展社数が1235社、部品から超大型トラクタやコンバインまで完全受注生産しており、

1235社が出品したFIMA展では、まず機械の大きさにビックリさせられました。日本では見ることのできない機械ばかり。日本と規模の大きさ、圃場の広さの違いを感じました。

次の目的地ドイツでは、フェント社のトラクタ工場を見学しました。フェント社では年間トラクタ販売台数が1万1400台だそうです。その訪問先は、機械販売店。社長によると、営業マン2500の顧客です。これは日本の1人当たりの訪問先は、10日間の欧州農家の規模の広さの違いを、現在は60万農家という事です。日本もフランスも農業離れは同じだと思います。フランスでのもう一つ

機械のスケールに感激

ヤンマー農機北陸 浦 俊夫

第59次農経しんぼう欧州農事情視察団として参加させて頂いたとき、ヨーロッパの農機市場をどくと見ることができ、大変感謝しています。

第一目的のスペインのサラゴサでのメーカー

受注してから8週間出荷を強く感じます。規模や国の事情も、食・農業の状況は日々変わっています。今回の視察で、機械の役割が再確認できた。今後の視察で、さらなる発展を期したいと思っています。

欧州農業を支える先進技術

フランスでのもう一つ

取締役)